

JBCF 第2回 NTT 東日本宇都宮清原クリテリウム

開催日：2025年3月30日（日）

開催地：宇都宮清原工業団地周回コース

距離：予選 3.0km×6周=18km 決勝 3.0km×20周=60km

出場：阿見寺（11位）児玉（24位）辻（34位）藤井（48位）菅原（60位）仙洞田（DNF）

昨日の厳しいレース展開で活躍した6名で出走。

コースはヘアピンコーナーが1か所あるだけで比較的イージーなコース。

阿見寺のスプリントで優勝を狙い、藤井が周回賞を狙う。その他メンバーはサポートに徹するプランで出走。

～予選～

1組目に藤井、辻、仙洞田。2組目に阿見寺、児玉、菅原が出走。

各組80名出走、60名が決勝へ。

我々は誰一人掛けることなく決勝へ駒を進める。

～決勝～

このコースで逃げ切りがあったことは一度もない。阿見寺のスプリントを辻、菅原、児玉でサポート。

藤井は周回賞を狙いに。

スタートからそれなりの速度で進行。全ての選手が抜け出しを図る為、集団は落ち着かない。そのままゴールまで打ち合いが続く展開に。

辻、藤井が集団前方で動き回り、阿見寺、菅原、児玉、仙洞田が固まって走行。

終盤に向けて距離を消化していく。

この動きの中で仙洞田選手が落車。擦過傷のみの軽傷で済んだが、一枚失ってしまう事に。

ラスト一周、児玉と阿見寺が連携して20番手程でヘアピンをクリア。児玉がバックストレートで阿見寺を引き上げにかかるが右のラインが潰されてしまい上手く引き上げられず。

阿見寺はその動きで中央が空いたため単騎で挑むことに。

数名を抜き11位フィニッシュとなった。

優勝は混沌とした最終局面を捌き切ったヴィクトワール広島孫崎選手。
2位に宇都宮ブリッツェン岡選手、3位にスパークル大分黒枝士揮選手と続いた。

～監督談～

終始アタックが続く厳しそうに見えるがドロップする選手が少ないイージーな展開となった。急遽メンバー変更を行ったが、辻、仙洞田共によく動いたと思う。層が厚くなっているのを感じる。

最終局面で阿見寺と児玉しか残せなかったのは各選手再考しなければならない。

あと2枚残せていれば優勝争いに加われていた。

しかし毎レースあと一步のところまで来ているのは感じる。最後のピースを上手くはめられるようスタッフ、選手同じ方向を向いて歩むのみである。

～阿見寺談～

昨日のダメージが大きくスタート直後はきつかったがその後はイージーな展開だった。

最後は誠虎と上位を狙ったが右のラインで他チームの選手がペダルを外してしまい減速。幸い内側が空いたのでそちらに飛び乗ることはできた。

スプリントも伸びていたのでも悔しい結果になってしまったが、今年は集団の動きが見えているしきつい場面でも耐えられる時間が長くなっている。まだまだ調子は上がるので優勝目指して頑張っていきます

！